

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 「自律」「協調」「進取」の校訓の下、自分自身で考え、行動できる人、他の人のことを考えられる優しい人、進んで新しいことに取り組める人の育成を行う。
- 1 基礎学力の充実で、確かな学力を身につけ、各自の将来の可能性を広げる。
 - 2 キャリア教育を計画的に実施し、自らの目標を、自ら切り拓くことができる、社会の中でたくましく生きる力を育成する。
 - 3 学校生活の充実、活性化により、集団における規範意識、社会性を身につけ、よりよい社会の構成員を育成する。

2 中期的目標

- 1 基礎学力の充実**
 - (1) 「わかる授業、充実した授業」をめざし、授業改善に取り組む。
 - ア ICT活用授業改善推進チームを核に、公開授業や研究授業を効果的に活用した授業改善に組織的に取り組み、ICTを活用の授業改善も研究を進める。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、授業内容の+評価を、前年度(67%)以上に向上させる。(2020年度には70%)
 - ※ 授業アンケートにおける、授業分析・生徒意識の評価の向上。平成30年度は80%・76%以上。(2020年度は82%・80%以上)
 - ※ 学校教育自己診断(教職員)における、到達度の低い生徒に対する学習指導の評価を60%以上。(2020年度は70%以上)
 - イ 幅広い知識と教養を身につけ、新たな学習への意欲を高揚できるよう、読書を促進し、さらに有効な図書館活用を推進する。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、読書状況を改善する。平成30年度は45%に向上。(2020年度は50%)
- 2 キャリア教育の計画的実施による、たくましく生きる力の育成。**
 - (1) 「総合的な学習の時間」とLHR等を有機的に活用連携させ、3年間を通じた、計画的なキャリア教育、人権教育を実施する。
 - ア 各学年の計画から3年間を見通した計画への改善に取り組み、平成32年度に完成する。キャリア教育、人権教育を主軸とした学習を実施する。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、進路関係の+評価を、前年度(87%)以上にし、平成32年度は維持する。
 - ※ 学校教育自己診断(生徒)における、人権について学ぶ機会、いじめなどの対応についての評価を前年度以上にする。(2020年度80%以上)
 - ※ 学校教育自己診断(教職員)における、創意工夫を生かした総合的な学習の時間の評価を70%。(2020年度は80%)
 - (2) 生徒個々の意欲・能力を伸ばし、進路実現の可能性を拡大する。
 - ア 学年・教科・分掌の連携を図り、進路別のゼミなどを通じて各自の希望進路が実現できる能力を育成する。
 - ※ 就職決定状況の高水準維持(平成29年度内定者94名97%)、進学講習、勉強合宿等学習機会の充実。
- 3 教育活動の充実で、規範意識と社会性を身につけた、よき社会の構成員の育成。**
 - (1) 学校行事、部活動の活性化を図り、規範意識と社会性を育成する。
 - ア 生徒会活動、部活動を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。
 - ※ 部活動参加率60%以上への向上。2020年度は60%以上を維持。
 - イ 授業・HR・行事におけるあらゆる場面において、市民としての自立と公民意識の育成を図る。
 - (2) 地域との連携の中で、社会性を育成し、各自が、自信と誇りを持てるように、能力と意識を高める。
 - ア 地域連携活動への参加を促進し、自信と誇りを高める。
 - ※ 各種地域活動への参加と、学校教育自己診断(生徒)における「社会のルールを学ぶ機会がある」評価を80%以上にする。(2020年度維持)
- 4 学校運営組織の充実と指導力向上**
 - (1) 授業研究・職員研修を積極的に進め、経験年数の少ない教員の授業力の向上と、学校全体の教育力の向上を図る。
 - ア 初任者育成体制を活用し、教育課題の解決、研修成果の共有機会を確保する。また、計画的な職員研修を実施する。
 - ※ 学校教育自己診断(教職員)における、研修の成果に関する項目の+評価は前年度(91%)を維持。(2020年度維持)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年10月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【全般】 昨年度より肯定率が向上した設問の割合は、生徒68%、保護者76%、教職員40%。教職員の肯定率の割合が落ち込んでいたが、数値の変化はほとんどみられず、また、全項目の平均においても生徒73.9%、保護者69.6%、教職員84.3%と保護者を除いては昨年とほぼ同様の結果であった。保護者の肯定回答(平均)は昨年より10%向上しており、アンケートの質問項目においても、5項目以外で昨年度を上回るといふ高い評価となった。</p> <p>「先生は子どもの評価を適切・公平に行っている」90.9%「学校は保護者の相談に適切に応じてくれる」86.5%と、いずれも保護者の高い評価を得ており、今後も家庭と連携を取りながら、さらなる取り組みを進めていく。</p> <p>【学習指導等】 「学校に行くのが楽しい」77%「先生は生徒の話をよく聞いてくれる」80.9%「先生は、自分が努力したことを認めてくれる」82.8%といずれも高評価を得ている反面、「授業は分かりやすく楽しい」63.4%と低く、ICT機器が充実や授業改善が急務であることを感じる。2022年度以降の新学習指導要領実施に向け、学校全体で授業改革に取り組み、また『活字離れ』を解消すべく、図書室利用率をあげる方策も進めており、その結果、図書館利用は約10%増加した。分かりやすく楽しい</p>	<p>【第1回】H30.5.30(水) <u>平成29年度学校評価及び平成30年度学校経営計画について</u> (提示資料：西寝屋川版Can-Do-List(以降CDLと表記)、全教科横断型授業一覧表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・到達目標が示され、何を学んだらよいかポイントが絞られており生徒も分かりやすい。シラバスを見る生徒は大学生でも少ないが、このような形のものであれば生徒も教師が意図するところがわかるので生徒への開示、配布を希望する ・ポイントと到達目標が明確である、狙いがどこなのか、どんな力が必要なのか理解できる。中学校では3年間で具体的にどういう力を身につけさせるのかを教科ごとに決めている。 ・今年3年生の面接指導ではしっかりした受け答えの出来る生徒が多く、アルバイトをしている生徒が少なかった。またアルバイトはクラブ活動を阻害してしまう原因にもなる。反面、バイトと勉強を両立している生徒もおり、バイトによる社会勉強の面、自分でお金を稼ぐことで金銭感覚を養う側面もあり、反対ではなく上手く両立できることを考えさせることも必要ではないか。要は程度の問題で、この程度を考えることがキャリア教育につながるし、主体性を育てる側面もある。 ・中学生の高校選択の1つの指標に部活動がある。高校に進学して『これをやりたい』と思えるクラブ活動は学校の魅力である。 ・中学でのクラブ活動状況などの情報を高校と連携は必要ではないか。 ・全生徒でなくともかまわないので、一生懸命取り組んだ生徒の情報は高校に伝えたい。 ・登下校時の交差点でのマナーも良くなってきているし、遅刻する時間には生徒を見

授業の実現のため、教職員が研修や相互の授業見学などを通じて、課題の共有化に努めている。また、読書習慣やアルバイトに対する指導を含めた家庭学習の在り方を改善し、学力向上の取り組みを進めていく必要がある。

【進路指導】

「将来の進路や生き方について考える機会がある」89.9%、「学校は進路についての情報を知らせてくれる」88%と高評価で、昨年度のポイントを上回っている。『キャリア教育の充実』が生徒の満足を得られる形で実施されている。

【生徒指導等】

今年度の遅刻回数は、大幅に減った昨年度並みに減少している。12月現在で、平均して年間1人あたりの遅刻回数は約3回となっているが、一部の生徒に遅刻が重なる傾向にある。しかしながら、学校の基本である授業を大切にしようという姿勢が少しずつだが、授業見学においても感じられる。

「生活規律や学習規律などの生活習慣の確立に力を入れている」「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」が79%、「挨拶は自分から進んで行うよう心掛けている」77.9%。保護者の方も生徒指導の方針に共感し(78.9%)と昨年度を上回り、日頃から学校と保護者とが連携して学校生活の充実に努めていることが窺える。

かけなくなった。

・学校経営計画の中に『読書の促進』が記載されているのでCDLの中でも課題図書のように反映されてはどうか。

【第2回】H30.10.24(水) 授業見学と新入生アンケート結果について

(6月に実施した39期生の新入生アンケート集計結果の報告)

・折角のアンケートだけにクロス分析が出来るようにしたらもう少し生徒像がつかめるのではないかと。例えばアルバイトをしている生徒と就寝時間の関係のように、活用方法を考えアンケート設計を行ってみたいだろうか(睡眠時間とスマホ、アルバイトと授業態度の関係もわかるとよいのでは)。

授業見学(6限 14:15~15:05 2年古典、1年英語、3年日本史)

・先生の問いかけに対しても積極的に発言があり、一生懸命に授業を受けていた生徒が多いと感じた。

・いい意味で授業が様変わりしたと思う。グループ学習やペアワークを積極的に行っていた。先生が一生懸命指導しているのが伝わった。ただ、熱心で丁寧すぎることで、生徒が自分でやろうとするところをスポイルしてしまうのではないかと。

・中学校には『全国チャレンジテスト』と言うものがあり、それにより結果がでてくるが、高校にはそれに該当するようなものがないのでは。中学ではそれが教師の授業改善の検証に繋がるが、高校もそれに替わるものが必要ではないかと。

・『iプロ通信』は教員向けに発信されているが、生徒に向けて発信してはどうか。

・進学については、各大学が合格者の人数をしっかりと守ってきている。そのためAO、公募入試とこれまでのレベルより1ランク下を受験する受験生が多くなり、これまで合格していた学校への合格が難しくなっていることは確かである。

【第3回】H31.2.13(水) 学校教育自己診断及び次年度学校経営計画について

学校教育自己診断について

(11月に実施した学校教育自己診断の結果報告(首席より説明))

・保護者の“子どもの部活動に取り組む状況”に対する数値(低い値)を保護者はどう感じていると思うか。アルバイトより高校生活では部活動に取り組む事は今後にとって重要と考える。ただし、家庭の事情から已む無もあるかと思うので、家庭の事情も考慮しアルバイトをしていても参加できる部活動など、そのあり方を考えていくことも必要か。

・『学校の相談できる体制』に関する項目は学年毎3年間の比較があるとよい。

・教職員のアンケート提出率が100%ではないがそれは問題ないのか。次年度の学校経営計画の基となるものと感じる。100%をめざすべき。

・生徒の『指導に納得できる』および、保護者の『指導方針に共感できる』に対し生徒は1/3、保護者は1/5が否定的に感じていることが気になる。『指導』というくくりが大きいのもう少し絞ってはどうか。

・年々否定的な数値は低くなっているが、否定的な意見が高い項目があることも事実、この高い状態にあることの対策が今後の課題ではないかと。

37期生進路決定状況について(進路指導主事より説明)

・文科省の大学に対する指導が厳しくなっており、その影響でAO入試による合格者が若干減っている。そのため指定校に切り替え受験する生徒が増えている。

・就職に関しては引き続き非常に多くの求人票をいただいております。今年は特に事務職やホテル業界から多く求人票をいただいた。企業、生徒それぞれが納得できる就職ができていると考えている。

・『フリーター・自己開拓』を希望する生徒の人数は多いのか。

・ほぼ例年通り、ただ近年は高校生時代から芸能活動を行っている生徒が増え、その影響によるものもある。

来年度学校経営計画について

『来年度学校経営計画』において【めざす学校像】、【中期的目標】の承認をいただかなければならないことについて説明。

・今年度が3年目で現状各先生が頑張っており、成果も現れてきているので大幅に変えることは考えていない。大事にしたいのは新学習指導要領を見こしての“授業改革”、そして昨今のSNSの問題でも問われている正しいモラル、社会のルールをしっかり指導することで“生きる力”を育んでいきたい。

・来年度学校経営計画に対し承認をいただく

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力の充実	<p>(1)「わかる授業、充実した授業」をめざし、授業改善に取り組む。</p> <p>ア 公開授業・研究授業・授業アンケートの活用</p> <p>ICT活用授業の研究</p> <p>学習到達度の低い生徒への学習指導</p> <p>イ 読書の促進</p>	<p>(1)ア・ICT活用授業改善推進チーム(IJKST)が核となり、本校の課題を各学年・各教科・分掌等で共有化のもと、目標設定を行い、学校全体として授業改善に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の現状を捉え、教職員が共通した教育観を持つ(職員研修等、事例発表)。 「わかる授業、充実した授業」の授業方略を導入するため、生徒の課題克服を念頭に、相互の授業見学で多様な授業スタイルを共有する。(年2回以上実施) 授業以外の学習時間を調査し、現状を把握するとともに、家庭学習の在り方の改善に向け検討。到達度の低い生徒へのアプローチ。 授業において、教師がタブレットPC等を活用して、生徒の学習意欲を高める授業が実施できる環境整備を進める。 <p>イ・図書室は学習においても活用し、さらに環境整備を行い、本に親しむ環境を整える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各学年・各教科・分掌等で共有化のもと、目標設定を行う。学校教育自己診断(教職員)による分掌・学年間の連携のプラス評価を80%以上を維持。(平成29年度は76.1%) 授業アンケートの「授業分析」「生徒意識」項目のポイントの向上。(平成29年度は3.25、3.09) 学校教育自己診断(生徒)による授業理解のプラス評価を60%以上(平成29年度58.2) 学校教育自己診断における読書状況の図書館利用率45%目標。(平成29年度42%) 	<p>(1)ア IJKST が中心となり、学校全体の授業改善に向けた取り組みを展開してきた。西寝版 Can-do-list の作成を行った。教職員の熱い思い(意図するところ)が伝わるように生徒への周知についても考えていきたい。相互授業見学は2回実施し、ほぼ100%の教員が実施した。学校教育自己診断(教職員)による分掌・学年間の連携のプラス評価78.9%で、目標値には届かなかった。(△)しかし、研修等を通じ、意識は昨年度より確実に向上しており、教職員全体はよく頑張っている。</p> <p>授業アンケートの「授業分析」「生徒意識」項目のポイントは81.5%、77.6%とほぼ昨年並みであるが、向上している。(◎)</p> <p>学校教育自己診断(生徒)による授業理解のプラス評価63.4%と向上している。(◎)</p> <p>イ図書館業務担当はじめ、各教科分掌で活用に工夫をした結果、利用率向上。51.5%(◎)</p>
2 たくましく生きる力の育成	<p>(1)3年間の計画的なキャリア教育、人権教育</p> <p>ア「総合的な学習の時間」に各教科指導・LHRを連携させたキャリア教育人権意識の向上</p> <p>(2)進路実現の可能性を拡大</p> <p>ア各進路希望別ゼミの充実による希望進路の実現</p>	<p>(1)ア・「総合的な学習の時間」の委員会が中心となり、現状分析と課題把握、今後の方向性と課題解決策の策定に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年・教科・分掌の取り組みを可視化し「総合的な学習の時間」を活用し、希望進路の実現を図る。 外部人材を活用した、より広い観点からのキャリア教育また、人権の生徒向け、教職員向けの研修を実施して一層充実させる。 <p>(2)ア・進学講習、勉強合宿等、進学希望者の意識・学力の向上をめざした教育活動を積極的に進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路実現をめざした、「自ら発信する力」の醸成をめざし、授業をはじめ、様々な指導の場面において「挨拶」の励行を推進する。 進路決定後の進路別の接続を意識した学習の在り方を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(教職員)の総合的な学習の時間のプラス評価70%(平成29年度63%) 学校教育自己診断(生徒)による進路関係のプラス評価を前年度以上に向上。(平成29年度は87%) 進学希望者勉強会の参加者は昨年度並みを維持。(平成29年度は30名) 人権教育の肯定率75%以上に。(平成29年度は74%) 学校教育自己診断(生徒)「挨拶は自分から進んで行うよう心掛けている」の肯定率75%以上。(平成29年度は73%) 	<p>(1)ア「総合的な学習の時間」の実施内容について、各学年で方向性は固まってきた。次年度より「探究の時間」に向け、人権教育のみならず、道徳教育も含めた委員会として取り組んでいく。総合的な学習の時間のプラス評価78.9%(◎)。</p> <p>人権教育のプラス評価は80%で昨年より向上(◎)。</p> <p>昨年度からキャリア教育について、生徒自身がより具体的に捉えられるよう、特に2年生において「進路Week」として外部人材登用の講座を展開した。(生徒)による進路関係のプラス評価89%(◎)。</p> <p>(2)ア今年度の進路希望実現は92.2%と昨年と同じ。高大連携先における勉強会は35名が参加し、昨年を上回った。(◎)</p> <p>「挨拶」の励行から「発信力」に繋がるような様々な場面で指導を行ってきた。学校教育自己診断(生徒)の「挨拶」肯定率は77.9%と目標を上回っている。(◎)</p>
3 規範意識と社会性を身につけたよき社会の構成員の育成	<p>(1)学校行事、部活動の活性化</p> <p>ア 集団の中で人と調和しながら活動できる能力の育成</p> <p>(2)地域との連携の中で社会性を育成</p> <p>ア 地域連携活動参加を促進し、自信と誇りを高める</p>	<p>(1)ア・新入生全員加入期間を複数回実施するなど部活動参加促進の取り組みを積極的に進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝のSHRにおいて遅刻防止、健康把握を行う。 アルバイト指導の徹底、授業規律の確保等、学習を重んじる姿勢、社会人としての規範を身につける指導を展開する。 <p>イ・授業・HRのみならず、学校行事の中でも公民教育(主権者教育)を展開する。</p> <p>(2)ア・地域あいさつ運動、校区生徒会交流行事等へ積極的に参加し、地域連携を進めるとともに、生徒の自尊感情の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 行事公開、授業公開により、開かれた学校づくり、誇りを持てる学校づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生の部活動加入率で60%以上を維持。(平成29年度は51%) 全体の遅刻回数をのべ3000回以内とする。(平成29年度は3473回) 学校教育自己診断(生徒)による「社会のルールを学ぶ機会がある」の評価を80%以上に。(平成29年度は79%) 保護者向け学校教育自己診断の「家庭への情報提供」に関する肯定率昨年度を維持。(平成29年度は76%) 	<p>(1)ア1・2学期を通じて複数回実施した。今年度は50.2%と思うように加入数が伸びなかった。アルバイトとの兼ね合いについても、対応している部活動もあるが、今後の課題。(△)</p> <p>遅刻については、昨年並みのペースを保っていたが、3943回と昨年を下回ることが出来なかった。(△)</p> <p>今年も後期生徒会役員選挙において公民教育を実施。学校教育自己診断(生徒)による「社会のルールを学ぶ機会がある」の評価は79%と昨年同様(△)であるが、生徒の選挙についての満足度は高い。</p> <p>(2)ア地域のあいさつ運動や小学校への出前授業では、参加生徒の肯定感は昨年同様100%であり、双方の教員間にも好評である。(◎)</p> <p>保護者への情報提供は昨年を上回り78%(◎)。</p>
4 学校運営組織の充実と指導力向上	<p>(1)経験年数の少ない教員の指導力の向上</p> <p>ア 初任者育成体制を活用し、教育課題の解決、研修成果の共有機会を確保する。</p> <p>職員研修を実施し、学校全体の教育力の向上を図る</p>	<p>(1)ア・校内の初任者育成研修「スタスタ研」、授業研究、ケース研究の機会を拡大し、授業力の向上、生徒指導力の向上、教育相談技術の向上を図る。</p> <p>(2)ア・生徒の抱える課題、指導の在り方などについて共有する場を設ける。現状の改善に向け、「チーム西寝屋川」として取り組む体制を整える。そのための職員研修を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間外における留守番電話の設置及び職員会議の効率化の徹底(事前配布資料の確認の徹底)で、各教職員の有用な時間をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断による「研修成果の共有」の評価を維持する。(平成29年度は91.3%) 学校教育自己診断による相談に関する評価を65%以上に。(平成29年度は62%) 職員研修を計画的に年4回以上実施。 	<p>(1)ア「スタスタ研」の実施では多くの教職員が係わってOJTを進めてきた。「研修機会の共有」では78.3%と昨年度を下回った。(△)しかしながら、昨年度より職員研修の場において本校の教育活動についての共通理解・共有化は進んだと感じている。(◎)</p> <p>生徒の相談に関する評価は66%と向上した(◎)。</p> <p>職員全体研修を4回実施。行事の関係で回数を増やすことは困難。</p> <p>時間外における留守番電話の設置を11月に行った。検証は未だだが、一定時間においては静かで、仕事に集中したり、職員同士の会話の時間に活用しているようだ。</p>